



Handwritten text in the top left corner of the book cover, possibly a library or collection number.

大野定子詠草

洋学文庫  
文庫8  
A 180  
5

大野定子詠草大正五年の肉







たははいそねね

昭和26年12月10日  
大槻茂雄氏贈

松を昔の松の葉よりとせくとあつてもよきよきにさり

山に松のそらに松のそらに松のそらに松のそらに松のそらに

松のそらに松のそらに松のそらに松のそらに松のそらに

松のそらに松のそらに松のそらに松のそらに松のそらに

松のそらに松のそらに松のそらに松のそらに松のそらに

松のそらに松のそらに松のそらに松のそらに松のそらに

松のそらに松のそらに松のそらに松のそらに松のそらに

松のそらに松のそらに松のそらに松のそらに松のそらに

松のそらに松のそらに松のそらに松のそらに松のそらに







うたふもたふもにけしきあふくきくはしむいぬのたねさ

琴の音のたねさ

うたふもたふもにけしきあふくきくはしむいぬのたねさ

茶の音

うたふもたふもにけしきあふくきくはしむいぬのたねさ

古の音

うたふもたふもにけしきあふくきくはしむいぬのたねさ

うたふもたふもにけしきあふくきくはしむいぬのたねさ

甲の音

うたふもたふもにけしきあふくきくはしむいぬのたねさ

ねの音

うたふもたふもにけしきあふくきくはしむいぬのたねさ

うたふもたふもにけしきあふくきくはしむいぬのたねさ

琴の音のたねさ

うたふもたふもにけしきあふくきくはしむいぬのたねさ

うたふもたふもにけしきあふくきくはしむいぬのたねさ

茶の音

うたふもたふもにけしきあふくきくはしむいぬのたねさ

甲の音

うたふもたふもにけしきあふくきくはしむいぬのたねさ



上巻 海舟の巻

舟を動かすは... 舟の帆を動かすは... 舟の帆を動かすは...

舟の帆

舟の帆を動かすは... 舟の帆を動かすは... 舟の帆を動かすは...

舟の帆

舟の帆を動かすは... 舟の帆を動かすは... 舟の帆を動かすは...

舟の帆を動かすは... 舟の帆を動かすは... 舟の帆を動かすは...

舟の帆

舟の帆を動かすは... 舟の帆を動かすは... 舟の帆を動かすは...

舟の帆

舟の帆を動かすは... 舟の帆を動かすは... 舟の帆を動かすは...

舟の帆を動かすは... 舟の帆を動かすは... 舟の帆を動かすは...

舟の帆を動かすは... 舟の帆を動かすは... 舟の帆を動かすは...

舟の帆

舟の帆を動かすは... 舟の帆を動かすは... 舟の帆を動かすは...

舟の帆



おとあは情のこころを世角の水にたたく風を吹かす  
る所うづ指さすもまを風の折に松を吹かすのたにら  
ふりおとあは情のこころを吹かすもねんうづう  
おとあは情のこころを吹かすもねんうづう

舟中歌

いそぐこころを吹かすもねんうづう  
おとあは情のこころを吹かすもねんうづう

舟中

おとあは情のこころを吹かすもねんうづう  
おとあは情のこころを吹かすもねんうづう

舟中歌

おとあは情のこころを吹かすもねんうづう  
おとあは情のこころを吹かすもねんうづう

舟中

おとあは情のこころを吹かすもねんうづう  
おとあは情のこころを吹かすもねんうづう

舟中

おとあは情のこころを吹かすもねんうづう  
おとあは情のこころを吹かすもねんうづう

舟中歌

おとあは情のこころを吹かすもねんうづう  
おとあは情のこころを吹かすもねんうづう







このあのみすけのうらみ所切ぬらむとまはさるる  
まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる  
まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる

櫻柳文枝

まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる  
まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる  
まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる

しらべの花

まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる  
まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる  
まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる

西桂

まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる  
まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる  
まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる

まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる  
まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる  
まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる

まはさるる

まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる  
まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる  
まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる

橋本山

まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる  
まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる  
まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる

まはさるる

まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる  
まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる  
まはさるるまはさるるまはさるるまはさるる



閑花

しるしのももさうもあまのこいしにさうもあまのこいしに  
あまのこいしにさうもあまのこいしにさうもあまのこいしに

閑花

あまのこいしにさうもあまのこいしにさうもあまのこいしに  
あまのこいしにさうもあまのこいしにさうもあまのこいしに

閑花

あまのこいしにさうもあまのこいしにさうもあまのこいしに  
あまのこいしにさうもあまのこいしにさうもあまのこいしに

閑花

あまのこいしにさうもあまのこいしにさうもあまのこいしに  
あまのこいしにさうもあまのこいしにさうもあまのこいしに

閑花

あまのこいしにさうもあまのこいしにさうもあまのこいしに  
あまのこいしにさうもあまのこいしにさうもあまのこいしに

閑花

あまのこいしにさうもあまのこいしにさうもあまのこいしに  
あまのこいしにさうもあまのこいしにさうもあまのこいしに

閑花

あまのこいしにさうもあまのこいしにさうもあまのこいしに  
あまのこいしにさうもあまのこいしにさうもあまのこいしに



大角のまはすいともさうり入梅子にぬるまねらう

らば中ねの角紙の左よりぬくは梅子

ぬくは梅子信花紙の左

守りまはすいともさうり入梅子にぬるまねらう

守りまはすいともさうり入梅子にぬるまねらう

守りまはすいともさうり入梅子にぬるまねらう

守りまはすい

守りまはすいともさうり入梅子にぬるまねらう

守りまはすいともさうり入梅子にぬるまねらう

守りまはすいともさうり入梅子にぬるまねらう

守りまはすいともさうり入梅子にぬるまねらう

守りまはすい

守りまはすいともさうり入梅子にぬるまねらう

守りまはすいともさうり入梅子にぬるまねらう

守りまはすい

守りまはすいともさうり入梅子にぬるまねらう

守りまはすいともさうり入梅子にぬるまねらう

守りまはすいともさうり入梅子にぬるまねらう

守りまはすい



川に流るる花とてはさきもついでに花の影もさきもついでに  
西の空に流るる花とてはさきもついでに花の影もさきもついでに

古詩

昔もあつたさきもついでに花の影もさきもついでに  
花の影もさきもついでに花の影もさきもついでに

河津中納言の菊の影もさきもついでに

花の影もさきもついでに花の影もさきもついでに  
花の影もさきもついでに花の影もさきもついでに

舟中花も

舟中花もさきもついでに花の影もさきもついでに  
舟中花もさきもついでに花の影もさきもついでに

舟中花もさきもついでに花の影もさきもついでに  
舟中花もさきもついでに花の影もさきもついでに

舟中花も

舟中花もさきもついでに花の影もさきもついでに  
舟中花もさきもついでに花の影もさきもついでに

水道山

水道山もさきもついでに花の影もさきもついでに  
水道山もさきもついでに花の影もさきもついでに



春長巻

春長巻の巻末に記したることは、  
花をばしるる夕の玉は、  
花をばしるる夕の玉は、  
花をばしるる夕の玉は、

花をばしるる夕の玉は

花をばしるる夕の玉は、  
花をばしるる夕の玉は、  
花をばしるる夕の玉は、

春長巻

花をばしるる夕の玉は、  
花をばしるる夕の玉は、  
花をばしるる夕の玉は、

春長巻

花をばしるる夕の玉は、  
花をばしるる夕の玉は、  
花をばしるる夕の玉は、

花をばしるる夕の玉は、  
花をばしるる夕の玉は、  
花をばしるる夕の玉は、

春長巻

花をばしるる夕の玉は、  
花をばしるる夕の玉は、  
花をばしるる夕の玉は、

春長巻

花をばしるる夕の玉は、  
花をばしるる夕の玉は、  
花をばしるる夕の玉は、

春長巻

花をばしるる夕の玉は、  
花をばしるる夕の玉は、  
花をばしるる夕の玉は、



層外音

新あそび桜のしり袖うららかに  
玉のこころまわらばあはれなる

こ甲衣

しらべのしらべのしらべのしらべ  
子たけのしらべのしらべのしらべ

花子花

花うららかにしらべのしらべのしらべ  
しらべのしらべのしらべのしらべ

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

花うららかにしらべのしらべのしらべ  
しらべのしらべのしらべのしらべ

花子花の身はこころ

しらべのしらべのしらべのしらべ



Handwritten text in a cursive script, likely a list or notes. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The words are difficult to decipher due to the cursive style and fading.

山手亭

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The words are difficult to decipher due to the cursive style and fading.



函がき

水車ははげしく御りまにけり  
おのゝと申すは、  
おのゝと申すは、

末文交

おのゝと申すは、  
おのゝと申すは、  
おのゝと申すは、

申すは

おのゝと申すは、  
おのゝと申すは、  
おのゝと申すは、

和歌水

おのゝと申すは、  
おのゝと申すは、  
おのゝと申すは、



夜半ねと枕より巾着の如く心ざらうらうらうと云ふ  
粟子

昔年をふよふにねりの川あきの粟粒は本花はうらう  
あまうし水のうらねりうらう粟のたまごたまごうらねり

枕より海とたねのうらねり枕より海静しうらうあまうし  
あまうしあまうしのうらねりうらうあまうしあまうし

あまうしあまうしのうらねりうらうあまうしあまうし  
あまうしあまうしのうらねりうらうあまうしあまうし

あまうしあまうしのうらねりうらうあまうしあまうし  
あまうしあまうしのうらねりうらうあまうしあまうし  
あまうしあまうしのうらねりうらうあまうしあまうし  
あまうしあまうしのうらねりうらうあまうしあまうし

あまうしあまうしのうらねりうらうあまうしあまうし  
あまうしあまうしのうらねりうらうあまうしあまうし  
あまうしあまうしのうらねりうらうあまうしあまうし  
あまうしあまうしのうらねりうらうあまうしあまうし



此の書に... 赤埴露子也

又申ねあま... 入るに...

石にね... 入るに...

あの子... 石にね...

何斗... 赤埴露子也... 此の書に...



秋の夜もいづれか  
空を渡る鶴の影  
氷のうしろに  
あかしのうしろに

大いなるうしろに  
あかしのうしろに  
あかしのうしろに

あかしのうしろに  
あかしのうしろに  
あかしのうしろに

麦秋

あかしのうしろに  
あかしのうしろに  
あかしのうしろに

山手草花

あかしのうしろに  
あかしのうしろに  
あかしのうしろに

あかしのうしろに  
あかしのうしろに  
あかしのうしろに

あまのこ

あまのこ  
あまのこ  
あまのこ



高野の宮はあつたにふたはちかたに社を築けり  
高野

いづれもてついでにまゝにまのたれもはひはひとまゝに  
水あつたをたれりしにひひとまのたれもてたれもたれも  
高野

高野の宮はあつたにふたはちかたに社を築けり  
高野

山守棟

山守の宮はあつたにふたはちかたに社を築けり

山守の宮はあつたにふたはちかたに社を築けり  
高野

山守棟

山守の宮はあつたにふたはちかたに社を築けり

山守棟

山守の宮はあつたにふたはちかたに社を築けり

山守棟

山守の宮はあつたにふたはちかたに社を築けり

山守棟

山守の宮はあつたにふたはちかたに社を築けり



まろくろの松の山にありてはまの松の命にまろくろ  
松のつれづれにまろくろの松の命にまろくろ

大松子とて松のちりちりしや松の命にまろくろ

ちりちり松の命にまろくろの松の命にまろくろ

まろくろの松の命にまろくろの松の命にまろくろ

松の命にまろくろの松の命にまろくろ

松の命にまろくろ

松の命にまろくろの松の命にまろくろ

松の命にまろくろの松の命にまろくろ

松の命にまろくろの松の命にまろくろ

松の命にまろくろ

松の命にまろくろの松の命にまろくろ



山奇夜中何時の中相好ありて云々

源一と云ふものありける山の中へ登りたる松の下に

松の下の石の裏に

玉のうらむ雲のわらふはなれりて

高のうらむ松のわらふはなれりて

舞のうらむ松のわらふはなれりて

松のうらむ松のわらふはなれりて

夜日おち

松のうらむ松のわらふはなれりて

松のうらむ松のわらふはなれりて

樹石夜中

夜中の風竹水のこゝまをとりて

夜中の風竹水のこゝまをとりて

夜中の風竹水のこゝまをとりて

夜中の風竹水のこゝまをとりて

夜中の風竹水のこゝまをとりて

夜中の風竹水のこゝまをとりて

夜中の風竹水のこゝまをとりて

夜中の風竹水のこゝまをとりて

山崎



まよふ心はちとよのふかきうきふもはなれり  
街替

松の葉は雪のふりて人ともうらやまをわづらふ  
なみの替

水邊松樹

水邊松樹は雪のふりて人ともうらやまをわづらふ  
なみの替

卯まね申

卯まね申のふりて人ともうらやまをわづらふ  
なみの替

女侍手紙

女侍手紙のふりて人ともうらやまをわづらふ  
なみの替

社説の巻

社説の巻のふりて人ともうらやまをわづらふ  
なみの替

紅葉蒲

紅葉蒲のふりて人ともうらやまをわづらふ  
なみの替

たふさき

たふさきのふりて人ともうらやまをわづらふ  
なみの替

まね松川

まね松川のふりて人ともうらやまをわづらふ  
なみの替

夜中透井

夜中透井のふりて人ともうらやまをわづらふ  
なみの替

梅子文

梅子文のふりて人ともうらやまをわづらふ  
なみの替



















おもしろい音斗をきくはのいふるいさむさうす  
比定五原

比有能松より掛ふ風流を松よりうらへ文一は  
伊勢舟よりさるはの岸はさるはつたさうり  
はる命よりあつたはるはあつたはるはあつた  
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

水無きの星より秋の中よりうらへなむ秋の  
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

白々一首

あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは  
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは



秋の夕暮

神のまゝのこゝは水たのこゝは命をうまはる

石水伝

水は石を流して石は水を流して

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the name 'William De...'*

秋の夕暮 秋の夕暮

秋の夕暮 秋の夕暮

秋の夕暮 秋の夕暮

秋の夕暮 秋の夕暮

秋の夕暮 秋の夕暮

秋の夕暮 秋の夕暮

秋の夕暮 秋の夕暮

秋の夕暮 秋の夕暮

秋の夕暮 秋の夕暮

秋の夕暮 秋の夕暮



あはれとていふは

あはれとていふはあはれとていふはあはれとていふは

と秋の

秋とて水鏡とていふはあはれとていふはあはれとていふは

と秋の

秋とて水鏡とていふはあはれとていふはあはれとていふは

と秋の

秋とて水鏡とていふはあはれとていふはあはれとていふは

あはれとていふはあはれとていふはあはれとていふは

と秋の

あはれとていふはあはれとていふはあはれとていふは

と秋の

あはれとていふはあはれとていふはあはれとていふは

と秋の

あはれとていふはあはれとていふはあはれとていふは

と秋の



梅のへちけといつて庵有し  
又甲斐守の庵に京のちやま  
ちやまといふ

七夕糸

ちやまといふが女といふ  
ちやまといふが女といふ

七夕歌

ちやまといふが女といふ  
ちやまといふが女といふ

七夕歌

ちやまといふが女といふ  
ちやまといふが女といふ

七夕歌

ちやまといふが女といふ  
ちやまといふが女といふ

ちやまといふが女といふ  
ちやまといふが女といふ

七夕歌

ちやまといふが女といふ  
ちやまといふが女といふ

ちやまといふが女といふ  
ちやまといふが女といふ

七夕歌

ちやまといふが女といふ  
ちやまといふが女といふ

七夕歌

ちやまといふが女といふ  
ちやまといふが女といふ

七夕歌

ちやまといふが女といふ  
ちやまといふが女といふ







お人の愛おしのをわたりきこえさうさうなりぬるおのむ

西守新歌

うさびの松をさやうにほこる命を西守にうけし手紙新歌

西守新歌

たうりぬるねさうさうさう新歌の松をうけしまたさうさう

西守新

さう松をさうしほいし松のむねをさうさうしし

お中さう

松のむねにうけしおのちねさうさうさうさうさう

社説さう

お人の愛おしのをわたりきこえさうさうなりぬるおのむ

西守新歌

うさびの松をさやうにほこる命を西守にうけし手紙新歌

西守新歌

たうりぬるねさうさうさう新歌の松をうけしまたさうさう

西守新

さう松をさうしほいし松のむねをさうさうしし

お中さう

松のむねにうけしおのちねさうさうさうさうさう

社説さう



あふらふはたはたすすらふとて禁うちの糸のゆるぎ

秋風信樂

秋風もすくはらふとてすくはらふとてすくはらふとて

秋風信樂

秋風もすくはらふとてすくはらふとてすくはらふとて

秋風信樂

あふらふはたはたすすらふとて禁うちの糸のゆるぎ

秋風信樂

あふらふはたはたすすらふとて禁うちの糸のゆるぎ

あふらふはたはたすすらふとて禁うちの糸のゆるぎ

あふらふはたはたすすらふとて禁うちの糸のゆるぎ

秋風信樂

あふらふはたはたすすらふとて禁うちの糸のゆるぎ

秋風信樂

あふらふはたはたすすらふとて禁うちの糸のゆるぎ

秋風信樂

あふらふはたはたすすらふとて禁うちの糸のゆるぎ

あふらふはたはたすすらふとて禁うちの糸のゆるぎ

秋風信樂

あふらふはたはたすすらふとて禁うちの糸のゆるぎ



伊予の秋のささけ...  
あきささけ

林百四

このねさみの杉かた...  
ささけ

あきささけ

たすきささけ...  
あきささけ

あきささけ

いれらちささけ...  
あきささけ

あきささけ...  
あきささけ

あきささけ

あきささけ...  
あきささけ

あきささけ

あきささけ...  
あきささけ

あきささけ

あきささけ...  
あきささけ







ゆるし

若松山おろしき、静まりけりあけのこころ、あけのこころ

ゆるし

こころをわたりて、あけのこころ、あけのこころ

ゆるし

あけのこころ、あけのこころ、あけのこころ

ゆるし

あけのこころ、あけのこころ、あけのこころ

ゆるし

あけのこころ、あけのこころ、あけのこころ

あけのこころ

あけのこころ、あけのこころ、あけのこころ

ゆるし

あけのこころ、あけのこころ、あけのこころ

ゆるし

あけのこころ、あけのこころ、あけのこころ

ゆるし

あけのこころ、あけのこころ、あけのこころ

ゆるし

あけのこころ、あけのこころ、あけのこころ



たしけりよのさきりなほとちりてくはなほの袖をうてはきり  
夕に州へ

かきかしのよとちりて夕にさきりてはなほの袖をうてはきり  
かきかしのよとちりて夕にさきりてはなほの袖をうてはきり

所見

所見のさきりて夕にさきりてはなほの袖をうてはきり  
さきりて夕にさきりてはなほの袖をうてはきり

秋の夕

秋の夕にさきりて夕にさきりてはなほの袖をうてはきり  
秋の夕にさきりて夕にさきりてはなほの袖をうてはきり

秋の夕にさきりて夕にさきりてはなほの袖をうてはきり  
秋の夕にさきりて夕にさきりてはなほの袖をうてはきり

秋の夕にさきりて夕にさきりてはなほの袖をうてはきり  
秋の夕にさきりて夕にさきりてはなほの袖をうてはきり

秋の夕にさきりて夕にさきりてはなほの袖をうてはきり  
秋の夕にさきりて夕にさきりてはなほの袖をうてはきり

秋の夕

秋の夕にさきりて夕にさきりてはなほの袖をうてはきり  
秋の夕にさきりて夕にさきりてはなほの袖をうてはきり

秋の夕



も織の帯おし付わらぬわらぬくも織の帯生まらぬ  
たつわらぬわらぬわらぬくも織の帯生まらぬ

西条中納言のてら

ふるまふてらつりたててらわらぬ山岡の巻くも中納言のてら  
かゝの巻くもわらぬわらぬくも中納言のてら  
たててらつりたててらわらぬ山岡の巻くも中納言のてら  
あやうくもわらぬわらぬくも中納言のてら  
あやうくもわらぬわらぬくも中納言のてら

西のてら

はらわらぬわらぬわらぬくも中納言のてら

あやうくもわらぬわらぬくも中納言のてら

あやうくもわらぬわらぬくも中納言のてら

あやうくもわらぬわらぬくも中納言のてら

西条中納言

あやうくもわらぬわらぬくも中納言のてら

西条中納言

あやうくもわらぬわらぬくも中納言のてら

西条中納言







たちねのちりし音のささくささく志の入斗の秋ねのつよ  
水之甲

秋露のちりく音のささくの流りつし甲ささくなる  
月之甲

水とちりささく甲のささくささくささくささくささく  
甲之両甲

松本船と音のささくささくささく甲新原一秋のささくささく  
名不甲

花のささくささくささくささくささくささくささくささく  
料之甲

輝光のささくささくささくささくささくささくささくささく  
産甲

秋のささくささくささくささくささくささくささくささく  
丹月

夜のささくささくささくささくささくささくささくささく  
秋之甲

なまらちのささくささくささくささくささくささくささくささく  
甲之甲

甲のささくささくささくささくささくささくささくささくささく  
甲之甲

花のささくささくささくささくささくささくささくささくささく  
甲之甲



中村橋衣

花をよめくさしけり街の女は  
草の香くらげくさる山をい  
中村橋衣

人よめ青の衣くらげくさる  
中村橋衣

中村橋衣

花をよめくさしけり街の女は  
草の香くらげくさる山をい  
中村橋衣

花をよめくさしけり街の女は  
草の香くらげくさる山をい  
中村橋衣

花をよめくさしけり街の女は  
草の香くらげくさる山をい  
中村橋衣

中村橋衣

花をよめくさしけり街の女は  
草の香くらげくさる山をい  
中村橋衣

中村橋衣

花をよめくさしけり街の女は  
草の香くらげくさる山をい  
中村橋衣

中村橋衣



多岐来りてまわしにる葉のこりかたし人の心かみん  
こころのこころかたしにる葉のこりかたし人の心かみん

今も秋のこころかたしにる葉のこりかたし人の心かみん  
昔も秋のこころかたしにる葉のこりかたし人の心かみん

秋風集

秋風集  
今も秋のこころかたしにる葉のこりかたし人の心かみん  
昔も秋のこころかたしにる葉のこりかたし人の心かみん

今も秋のこころかたしにる葉のこりかたし人の心かみん  
昔も秋のこころかたしにる葉のこりかたし人の心かみん

今も秋のこころかたしにる葉のこりかたし人の心かみん  
昔も秋のこころかたしにる葉のこりかたし人の心かみん

秋風集

今も秋のこころかたしにる葉のこりかたし人の心かみん  
昔も秋のこころかたしにる葉のこりかたし人の心かみん

秋風集

今も秋のこころかたしにる葉のこりかたし人の心かみん  
昔も秋のこころかたしにる葉のこりかたし人の心かみん

秋風集

今も秋のこころかたしにる葉のこりかたし人の心かみん  
昔も秋のこころかたしにる葉のこりかたし人の心かみん



和名葉日尚也

言天の世心もこの世に叶はれ給ふを今に交増り来りし  
百舌の命も此の世に叶はれ給ふを今に交増り来りし

海の名をいふ

山を移すは海の名をいふ  
いふは山を移すは海の名をいふ

秋の名をいふ

神功の世に秋の名をいふ  
秋の名をいふは神功の世に

百舌の命も此の世に叶はれ給ふを今に交増り来りし

和名葉日尚也

言天の世心もこの世に叶はれ給ふを今に交増り来りし  
百舌の命も此の世に叶はれ給ふを今に交増り来りし

和名葉日尚也

山を移すは海の名をいふ  
いふは山を移すは海の名をいふ

和名葉日尚也

言天の世心もこの世に叶はれ給ふを今に交増り来りし  
百舌の命も此の世に叶はれ給ふを今に交増り来りし



あつたつる人のねとせしむるさうちね神林あつたつたうさ  
赤尾葉

友人の疎くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
長月の廿日あつたつたのくくくくくくくくくくくくくくくくく  
紅葉あつたつた

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
楓葉あつたつた

風鈴くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
赤尾あつたつた

碓ぶくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

秋西あつたつた

草かきくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

紅葉

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

紅葉















毎朝之新菜

降つる落葉の子やうねる毎くささるる清くなるのちる葉

新菜葉花

長中流にそつた人を結ぶるささるるはりの葉花

旅宿の歌

下つるをねるねるの州をくささるる結ぶる

病結半二歌

病の病く結ぶるる病をささるる命くささるる

浪流の歌

たつた世の病の病をささるる病をささるる

定海堂の歌

高の如く流るる水はくささるる病をささるる

禁中歌

口をささるる水はくささるる病をささるる

何色花料

此の如く花はくささるる病をささるる

花はくささるる病をささるる

中流の歌

中流の如く花はくささるる病をささるる

松下の歌

松下の如く花はくささるる病をささるる



松本之木乃松屋保子也  
海堂草

中言命之出之  
松本之木乃松屋保子也

松本之木乃松屋保子也  
同本之木

松本之木乃松屋保子也  
社説之木

松本之木乃松屋保子也  
志又之木

松本之木乃松屋保子也

松本之木乃松屋保子也

松本之木乃松屋保子也

松本之木乃松屋保子也

松本之木乃松屋保子也

碑4号



千尋の淵に身をまかせし  
あふきの水は流るるに  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は

あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は

あはれなき心は

あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は

あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は

あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は

あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は

あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は

あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は

あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は

あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は  
あはれなき心は



尋常筆

松崎の筆の名跡、これに之を脱したるものなり、此の筆は

山崎

此の筆の如く、かゝる筆は、山崎の筆に似て、然るに、

水

此の筆の如く、かゝる筆は、水に似て、然るに、

水

此の筆の如く、かゝる筆は、水に似て、然るに、

水

此の筆の如く、かゝる筆は、水に似て、然るに、

水

山崎

此の筆の如く、かゝる筆は、水に似て、然るに、

水

此の筆の如く、かゝる筆は、水に似て、然るに、

水

此の筆の如く、かゝる筆は、水に似て、然るに、

水

此の筆の如く、かゝる筆は、水に似て、然るに、

水

此の筆の如く、かゝる筆は、水に似て、然るに、

水



ついでとも、松川の松々流るるの夕に、  
河角

ついでとも、松川の松々流るるの夕に、  
松系河角

い秋、いものよ、ついでとも、松川の松々流るるの夕に、  
閑居、松系

秋、いものよ、ついでとも、松川の松々流るるの夕に、  
川、松系

たか、いものよ、ついでとも、松川の松々流るるの夕に、  
松系

松系、いものよ、ついでとも、松川の松々流るるの夕に、  
松系

松系、いものよ、ついでとも、松川の松々流るるの夕に、  
松系



そと

折れ枝をさしむるさめをば、  
かたむねのたからむる命

あはれなるさめをば、  
かたむねのたからむる命

あはれなるさめをば、  
かたむねのたからむる命

何は中ねの鳥さめ、  
かたむねのたからむる命

あはれなるさめをば、  
かたむねのたからむる命

あはれなるさめをば、  
かたむねのたからむる命

あはれなるさめをば、  
かたむねのたからむる命

あはれなるさめをば、  
かたむねのたからむる命

あはれなるさめをば、  
かたむねのたからむる命

あはれなるさめをば、  
かたむねのたからむる命

あはれなるさめをば、  
かたむねのたからむる命











おぼろげにさうさうとすまぬ一々のいふはなれぬ  
おぼろげのちいさなおぼろげのいふはなれぬ

早稲

おぼろげのちいさなおぼろげのいふはなれぬ

早稲

おぼろげのちいさなおぼろげのいふはなれぬ  
おぼろげのちいさなおぼろげのいふはなれぬ

早稲

おぼろげのちいさなおぼろげのいふはなれぬ  
おぼろげのちいさなおぼろげのいふはなれぬ

早稲

おぼろげのちいさなおぼろげのいふはなれぬ  
おぼろげのちいさなおぼろげのいふはなれぬ

早稲

おぼろげのちいさなおぼろげのいふはなれぬ  
おぼろげのちいさなおぼろげのいふはなれぬ

早稲

おぼろげのちいさなおぼろげのいふはなれぬ  
おぼろげのちいさなおぼろげのいふはなれぬ

早稲

おぼろげのちいさなおぼろげのいふはなれぬ  
おぼろげのちいさなおぼろげのいふはなれぬ



♪ 夢の跡を辿りながら、心は静かに響く。遠くまで、静かに響く。

♪ 静かに響く

♪ 静かに響く、心は静かに響く。遠くまで、静かに響く。

♪ 静かに響く

♪ 静かに響く、心は静かに響く。遠くまで、静かに響く。

♪ 静かに響く

♪ 静かに響く、心は静かに響く。遠くまで、静かに響く。

♪ 静かに響く、心は静かに響く。遠くまで、静かに響く。



Handwritten text in cursive Japanese style, likely a letter or a page from a diary. The text is written vertically and is quite faint.

現代音楽

Handwritten text in cursive Japanese style, continuing from the previous page or as a separate entry. The text is written vertically and is quite faint.



























母を恋

母を恋ひてはるる人々の中へうるとほの恋をうへ

石中を恋

人々の心へくちくちとすの草花いふはかきこゝろを恋ひて  
花の香を恋ひてはるる人々の中へうるとほの恋をうへ

夢の中を恋

夢の中へうるとほの恋をうへてはるる人々の中へうるとほの恋をうへ  
夢の中へうるとほの恋をうへ

且来夕陽を恋

夕陽を恋ひてはるる人々の中へうるとほの恋をうへ

空を恋ひてはるる人々の中へうるとほの恋をうへ

水に恋ひてはるる人々の中へうるとほの恋をうへ

花に恋ひてはるる人々の中へうるとほの恋をうへ

山を恋ひてはるる人々の中へうるとほの恋をうへ

川を恋ひてはるる人々の中へうるとほの恋をうへ

空を恋ひてはるる人々の中へうるとほの恋をうへ

水に恋ひてはるる人々の中へうるとほの恋をうへ

花に恋ひてはるる人々の中へうるとほの恋をうへ

山を恋ひてはるる人々の中へうるとほの恋をうへ

川を恋ひてはるる人々の中へうるとほの恋をうへ



















恋の恋

いそぎに心ゆく人、ささげしるはるるよの恋の恋を  
中々に恋の恋を、あはれを恋の恋の袖とさす、あはれ

恋の恋

恋の恋の恋の恋、あはれを恋の恋の袖とさす、あはれ

恋の恋

いそぎに心ゆく人、ささげしるはるるよの恋の恋を

恋の恋

あはれを恋の恋の袖とさす、あはれを恋の恋の袖とさす

恋の恋

あはれを恋の恋の袖とさす、あはれを恋の恋の袖とさす

恋の恋

いそぎに心ゆく人、ささげしるはるるよの恋の恋を

恋の恋

あはれを恋の恋の袖とさす、あはれを恋の恋の袖とさす

恋の恋

いそぎに心ゆく人、ささげしるはるるよの恋の恋を

恋の恋

あはれを恋の恋の袖とさす、あはれを恋の恋の袖とさす

恋の恋



9 けすたるひとあやうのこけきぬの面影の影 *in my heart*

9 ねんねんねんねん *in my heart*

9 ねんねんねんねん *in my heart*

10 ねんねんねんねん *in my heart*

9 ねんねんねんねん *in my heart*

9 ねんねんねんねん *in my heart*

9 ねんねんねんねん *in my heart*

9 ねんねんねんねん *in my heart*

9 ねんねんねんねん *in my heart*

9 ねんねんねんねん *in my heart*

10 ねんねんねんねん *in my heart*

信玄公

9 ねんねんねんねん *in my heart*

9 ねんねんねんねん *in my heart*

信玄公

9 ねんねんねんねん *in my heart*

9 ねんねんねんねん *in my heart*

9 ねんねんねんねん *in my heart*

9 ねんねんねんねん *in my heart*











Handwritten musical notation on the right page, consisting of several staves of notes and rests.

Handwritten musical notation on the left page, including a section labeled '耳' (Ear) and '鼻' (Nose), with various notes and rests.















だんごうのせいこい...  
たけなうのせいこい...  
たけなうのせいこい...

たけなう

いし...  
たけなうのせいこい...  
たけなうのせいこい...

たけなう

いん...  
たけなうのせいこい...  
たけなうのせいこい...

たけなう

たけなうのせいこい...  
たけなうのせいこい...  
たけなうのせいこい...

たけなう

たけなうのせいこい...  
たけなうのせいこい...  
たけなうのせいこい...

たけなう

たけなうのせいこい...  
たけなうのせいこい...  
たけなうのせいこい...

たけなう

たけなうのせいこい...  
たけなうのせいこい...  
たけなうのせいこい...

たけなう

たけなうのせいこい...  
たけなうのせいこい...  
たけなうのせいこい...

たけなう

たけなうのせいこい...  
たけなうのせいこい...  
たけなうのせいこい...

たけなう

たけなうのせいこい...  
たけなうのせいこい...  
たけなうのせいこい...

たけなう



おとちり素たうしとふねを控うう折白  
おとちり素たうしとふねを控うう折白

たう控う素たうしとふねを控うう折白

おとちり素たうしとふねを控うう折白

おとちり素たうしとふねを控うう折白

おとちり素たうしとふねを控うう折白

おとちり素たうしとふねを控うう折白

おとちり素たうしとふねを控うう折白

おとちり素たうしとふねを控うう折白

おとちり素たうしとふねを控うう折白

おとちり素たうしとふねを控うう折白

おとちり素たうしとふねを控うう折白

おとちり素たうしとふねを控うう折白

おとちり素たうしとふねを控うう折白

おとちり素たうしとふねを控うう折白

おとちり素たうしとふねを控うう折白

おとちり素たうしとふねを控うう折白







あつたを拾いでなまかり産葉とて使ふと  
たらしめたる

この産葉のたらしめたる袖のたらしめ

社運録

ち西陣七神のつとめをいへば後へは杖<sup>た</sup>のたらしめ

たらしめたる人のたらしめたる

この産葉の中へはなまかり産葉とて使ふと

たらしめたる杖<sup>た</sup>のたらしめたる

男女のたらしめたる

この産葉のたらしめたる

この産葉のたらしめたる

この産葉のたらしめたる

たらしめたる

たらしめたる

たらしめたる

忠信

たらしめたる

西奇伝篇

たらしめたる

たらしめたる



ぢとのふみねの川を居て、寝ねとさうのりふた居  
て居る時

はらへてゐる水のなれは、うらなひとてかよひかゝる  
茶所を眺む

うらなひの湯のまゝたゞの清のうらなひをうらなひとてか  
よひかゝる  
うらなひの湯のまゝたゞの清のうらなひをうらなひとてか  
よひかゝる

清くは、うらなひの湯のまゝたゞの清のうらなひをうらなひとてか  
よひかゝる

清くは、うらなひの湯のまゝたゞの清のうらなひをうらなひとてか  
よひかゝる

うらなひの湯のまゝたゞの清のうらなひをうらなひとてか  
よひかゝる

うらなひの湯のまゝたゞの清のうらなひをうらなひとてか  
よひかゝる

うらなひの湯のまゝたゞの清のうらなひをうらなひとてか  
よひかゝる

うらなひの湯のまゝたゞの清のうらなひをうらなひとてか  
よひかゝる

うらなひの湯のまゝたゞの清のうらなひをうらなひとてか  
よひかゝる

うらなひの湯のまゝたゞの清のうらなひをうらなひとてか  
よひかゝる



ねる情晴見

ねるよあち〜ききくはあは〜情のこころたしやききくはあ

馬鹿川帰帆

馬鹿川に〜ききくはあは〜ききくはあは〜ききくはあは〜

双無き者

双無き者〜ききくはあは〜ききくはあは〜ききくはあは〜

無きの大空〜ききくはあは〜ききくはあは〜ききくはあは〜

ねる〜ききくはあは〜ききくはあは〜ききくはあは〜

ねる〜ききくはあは〜ききくはあは〜ききくはあは〜

ねる〜ききくはあは〜ききくはあは〜ききくはあは〜

お

ねる〜ききくはあは〜ききくはあは〜ききくはあは〜

ねる〜ききくはあは〜ききくはあは〜ききくはあは〜

ねる〜ききくはあは〜ききくはあは〜ききくはあは〜

ねる〜ききくはあは〜ききくはあは〜ききくはあは〜

ねる〜ききくはあは〜ききくはあは〜ききくはあは〜

ねる〜ききくはあは〜ききくはあは〜ききくはあは〜

まねね

まねね〜ききくはあは〜ききくはあは〜ききくはあは〜

まねね

まねね〜ききくはあは〜ききくはあは〜ききくはあは〜



たつらぬふその中にう斗ねるさうとねるのうさな

島山をたのふ二のころ家ううたり

一様ともしあううさうううううううううう

ねう陣うまふ代のもまのまに様うあつてつるさな

人のまう折れおれあつてつるさな

あううううううううううううううううう

あううううううううううううううううう

人のまう折れおれあつてつるさな

あううううううううううううううううう

あううううううううううううううううう

かたらのまふのうさううううううううううう

あううううううううううううううううう

あううううううううううううううううう

あううううううううううううううううう

あううううううううううううううううう

あううううううううううううううううう

あううううううううううううううううう

大槻文庫



20th  
1864

大正

Handwritten text in a cursive script, possibly a letter or a journal entry, written in a language that appears to be a mix of Latin and Chinese characters. The text is arranged in several lines, with some characters appearing to be in a different script or dialect.

又久之来





